

公営企業会計（水道事業）中期経営計画

1. 計画策定趣旨

（1）社会的背景

水道水の需要については、仙台北部中核都市建設における計画人口を配慮した計画水量を確保しております。

しかし、計画策定後の社会的、経済的情勢の変化により実績水量と計画水量に大きな乖離が生じております。

また、生活様式や形態の変化に伴い水道水の需要が伸び悩んでいる状態にあります。

このようなことから、事業の効率化や経営の改善に努めるとともに、需要者のご理解を得ながら健全な事業運営の確保と安全で良質な水を安定的に供給するように努めます。

（2）事業の現状

土地区画整理事業による住宅地や流通部門の販売分譲、農業集落排水事業及び合併処理浄化槽整備事業による水道使用量の増加を見込んで先行投資をしておりますが、社会情勢や経済情勢の影響で計画どおりに進展していないのが現状です。また、仙台北部中核工業団地内の企業で生産部門の一部が町外に転出するなどの厳しい要素もあります。

（3）事業の課題

- ・給水区域が広範囲なため施設整備にかかる投資効率が非常に低い
- ・県広域水道事業からの受水費の割合が事業経営に大きな影響を及ぼす
- ・施設の老朽化に対応する計画的な修繕と更新
- ・顧客ニーズ多様化への対応
- ・大規模地震をはじめとする災害対策等の充実
- ・財政状況悪化への対応と経営の効率化

2. 事業運営の基本方針

（1）計画の位置付け

■安全で良質な水を安定的に供給

現在、大和町の水道は1つの上水道（県受水）と3つの簡易水道（伏流水2、表流水1）で供給しています。特に、升沢簡易水道では膜ろ過装置を増設しており、これからも安全で安心な水道水の供給に努めてまいります。

※膜ろ過方式処理概要

…原水中の粗大な粒子やごみをフィルタで取り除いた後、膜モジュールに供給し、循環することにより、中空糸膜面でろ過を行い、浄水を得る処理方法です。

■サービスの向上

住民の方々が「大和町に住んで良かった」と実感できるまちづくりを進めており、役場はサービス機関であると認識し、お客様である住民の方々の満足度向上に努めます。

■事業経営の安定

アウトソーシングの導入を進め、人員削減、人件費の削減に努めます。

(2) 計画策定の期間

平成18年度から平成22年度まで

(3) 事業運営の目標（数値目標）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
有収率の向上	85.0%	85.5%	86.0%	86.5%	87.0%
徴収率の向上	97.0%	97.5%	97.5%	98.0%	98.0%
顧客満足度	—	—	—	—	—

(4) 経営基盤強化への取り組みに係る基本方針

■グループ制導入による広範な事務処理体制の確立

平成16年10月に導入した現在の体制「グループ制」の一層の充実を図り、班長を中心とした親切・丁寧はもちろん、スピーディーな事務処理に努めます。

■ワンストップサービスの実現

窓口の機能充実と内部事務の集約化・一元化を進めます。

■アウトソーシングへのチャレンジ

企業会計の安定的な経営を目標に、アウトソーシングによる経営効率の向上をめざした検討を進めます。

3. 事業計画

(1) 中期財政収支計画

①収益の収支及び資本の収支

(単位：千円)

		18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
収 益 の 収 支	料金	550,000	555,600	561,100	566,800	572,400
	他会計補助金等	222,800	228,000	234,700	254,000	245,000
	人件費	42,600	41,600	41,600	40,000	40,000
	物件費	725,700	742,000	754,200	780,800	777,400
	経常損益	4,500	0	0	0	0
資 本 の 収 支	企業債	17,200	0	0	0	0
	他会計補助金等	28,800	8,800	8,800	8,800	8,800
	他会計借入金等					
	国補助金	17,200	0	0	0	0
	県補助金					
	建設改良費	146,800	79,400	77,400	76,500	76,500
	企業債償還金等	107,500	99,100	94,700	82,200	69,200

②企業債残高

(単位：千円)

	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
総 額	1,592,100	1,491,300	1,396,700	1,314,500	1,245,200
(うち公的資金)	1,284,100	1,203,600	1,129,000	1,056,700	998,400

(2) 中期指標

(単位：千円 %)

	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
経常収支比率	100.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
不良債務比率	%	%	%	%	%
累積欠損金比率	%	%	%	%	%
繰入金比率(収益の収入分)	12.5%	12.3%	12.9%	24.7%	23.6%
職員一人当たり営業収益	118,600	119,700	120,900	122,200	123,400
事故件数(主に漏水)	45	45	45	40	40
苦情受付件数	15	15	15	10	10

(3) 将来需要予測 ★給水人口上昇伸び率 0.1% (16 年度決算値より)

	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
給 水 人 口 (人)	22, 508	22, 531	22, 554	22, 577	22, 600
年間総給水量 (m ³)	2, 774, 000	2, 781, 600	2, 774, 000	2, 774, 000	2, 774, 000
1 日平均給水量 (m ³)	7, 600	7, 600	7, 600	7, 600	7, 600

(4) 主要施策

施 策 名	実 施 時 期	内 容 (理由)
第 6 次水道拡張事業	平成 18 年度	水道拡張整備事業
老朽管対策事業	平成 18 年度～	老朽管の更新と私有地埋設本管の廃止及び代替管の整備
漏水防止対策事業	平成 18 年度～	漏水による経営悪化の改善

(5) 設備投資計画

(単位：千円)

	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
第 6 次水道拡張事業	81, 200	0	0	0	0
老朽管対策事業	20, 000	23, 000	21, 000	20, 000	20, 000
漏水防止対策事業	45, 600	56, 400	56, 400	56, 500	56, 500

4. 経営基盤強化への取り組み

(1) 経営改革への取組

	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度
水道料金の改定					検討
未収金の徴収対策	実施				
施設管理業務委託	検討	検討	検討	実施	

(2) 人材育成への取組

経営スキルや技術水準を高めるための各種研修(水道技術者研修、水道技術管理者資格取得講習会、水道事業経営管理事務研修、公営企業実務研修等)を積極的に活用し、また、職場での O J T 体制を整えるなど人材育成に努めます。

5. 環境保全等への取り組み

豊かな自然から湧き出る清らかな水の恩恵に感謝するとともに水源地の除草や清掃に努め、環境の負荷を軽減するため電気使用量の削減をするなどの工夫をします。

6. 計画達成状況の公表

(1) 公表時期

中間報告 平成20年10月

最終報告 平成22年 5月

(2) 公表方法

大和町情報公開条例（平成10年条例第26号）及び大和町情報公開条例施行規則（平成11年規則第3号）に基づき行っていくこととします。